

# なきごえ



1978

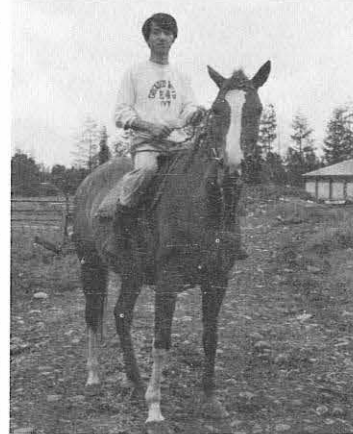
8

大阪市  
天王寺動物園協会

## 動物と私

鳥との付き合いが始まって1年と7ヶ月。この仕事を始めるまでに鳥を飼った経験と言えば、中学の頃にお小遣いを貯めて買った一番の十姉妹、この子孫はいまだに繁栄

大槻賢二



を続けている。それと大学の時に行った鶏の飼育実験ぐらいのものであった。小さい頃より動物は好きであったが、どちらかと言えば哺乳動物が特に好きであり、鳥類はあまり好きではなかった。というのも、鳥類は喜怒哀楽の表情に乏しく、あまりなつかないと思っていたからだ。もっとも最近では、一概にそうとも言えないなど思っている。表情の乏しいのは、表情筋が哺乳動物のように発達していないので、いたしかたないとしても種類によってはとてもよくなついてくれる。各々の好物も最近では分かってきたので、それを持って行ってやると、甘えた声を出して、ぼくにはそう聞こえるのだが、食べに寄ってくる。この近寄り方にも個性があって、ぶつかりそうな勢いで走り寄ってくるのもいれば、文字通り飛んでくるものもある。また、餌は欲しいけどぼくが恐いとみえて、じりじりと寄ってきて、精一杯首を伸ばし、さっと餌をついばむものもある。時には狙いがはずれてぼくの指をくわえてしまう。痛いなど思いながらもむしろそんな鳥の方がかわいく思

### なきごえ8月号目次

動物と私	2
“アシカの親子”	3
動物園グラフ「動物園の飼育係員の一日常」	4・5
ヨーロッパの動物園みてあるき①	6~9
Keepers' Eye ⑤	10
動物園ニュース	11

えるのである。毎日世話をしているなかなかなじまなかった鳥が手から餌を取った時、思わずにっこりしてしまう。いつまでも人になじまず、餌をやっても知らんぷりだったり、怒ったりでは人間のエゴかも知れないが、飼育していても何のはりあいもない。だからと言って、あまりに人間べったりになり、その鳥本来の姿、野性味が失なわれてしまうのは何かとてもさみしい気がする。飼育するとは一体どういう事なのか、最良の飼育とは、まるでわからなくなってしまう。

なれた鳥でも体に触れられるのは、たいがいの鳥がいやがる。ましてや捕まえるとなると大変である。ケガをしたり、病気の鳥を手当するため、捕まえようとすると必死になって抵抗する。それこそ死に物狂いである。思わず、「何もしないよ、手当するだけやから少しは協力しろよ」と声に出してしまう。こんな時は本当に言葉が通じたらなあと思う。普段世話をしている時でも無意識のうちに鳥に話しかけていたり、仲間をいじめているのがいると「こらっ、やめろ！」と怒鳴ったりしている。鳥に言葉が通じるわけもないのだが。そんなわけで言葉の通じぬ鳥達に人間の言葉というものがどれほど大事なもののなか、逆に教えられたような気がする。

始めはあまり好きではなかった鳥だが、その生活を見ていると、何か新しい発見があったり、感動があったりで、今ではすっかり好きになってしまった。口の悪いぼくの友人に、「お前は鳥と結婚でもする気か、そのうちお前によく似た鳥が生まれるぞ」と言われる始末である。

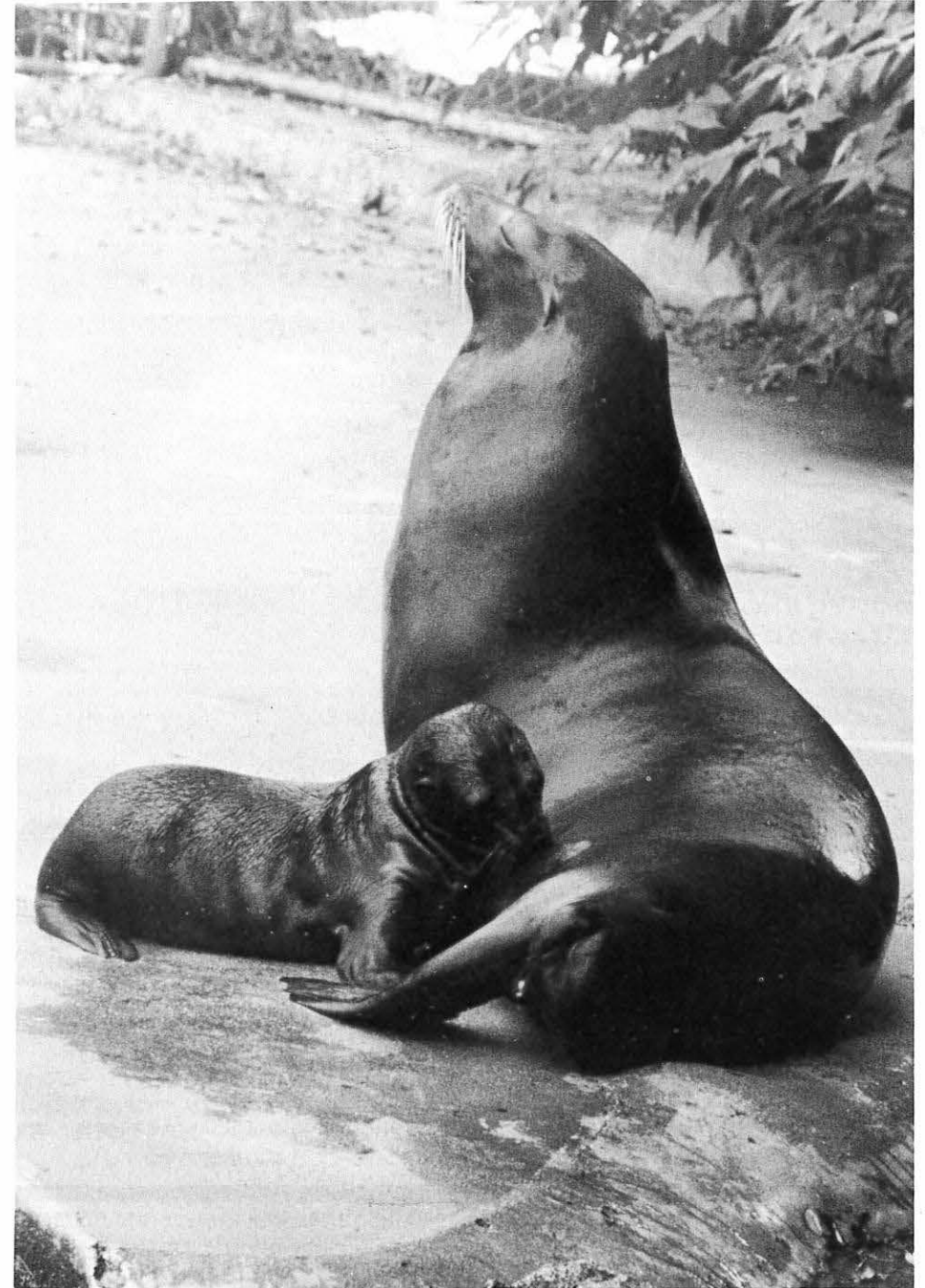
(W.W.F.会員)

### 表紙の写真説明

“ヒグマ”

暑さに弱いヒグマですが、夏バテをものともせず、プールにとびこんで水浴びをしたり、写真のように両足で立ち上がって愛嬌をふりまっています。

(撮影：樽本 勲)



### “アシカの親子”

5月30日と6月20日に各1頭のアシカの赤ちゃんが生まれました。2頭共、母親と一緒に泳いだり昼寝をしたり、ミルクを飲んだり……元気一杯に育っています。

(撮影：樽本 勲)

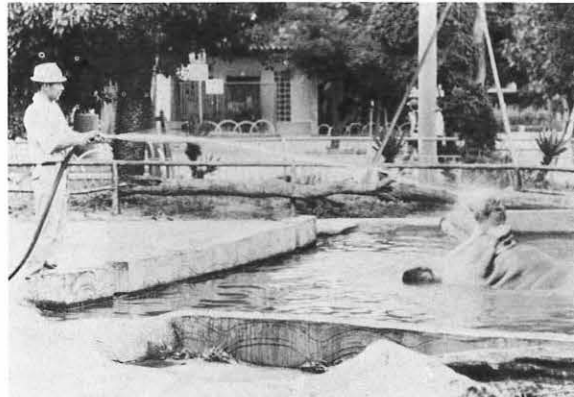


# 動物園グラフ 「動物園の飼育係員の一日」

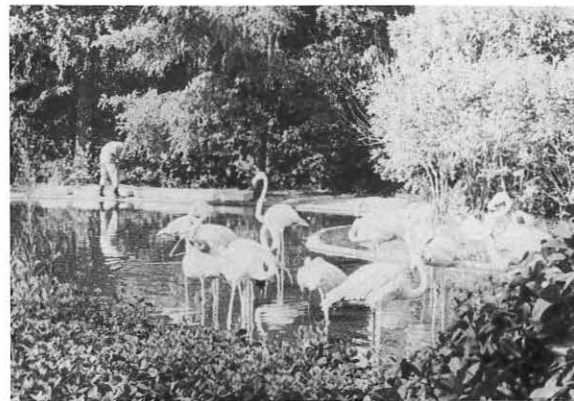
天王寺動物園には現在30人の飼育係員がおり、354種類1300点の動物の世話をしています。

今回はその飼育係員の仕事の内容の一部をグラフで特集してみました。

(撮影：仲谷 登・長瀬 健二郎)



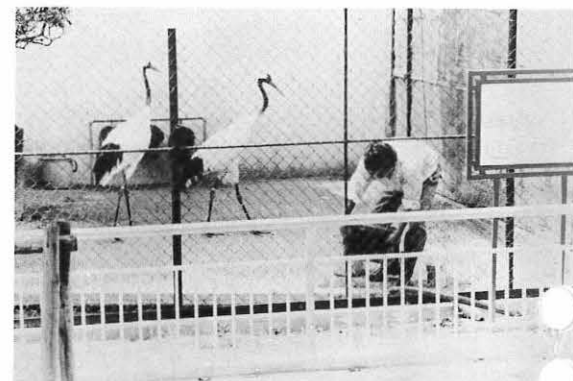
そうじのついでにカバの口の中もそうじ。カバも気持ちよさそうに大きな口をアーン。



フラミンゴの餌を専用のバットに入れ、食事の開始です。



動物とのスキンシップも時に必要。オセロットの頭をなでて、ごきげんうかがい。



タンチョウはドジョウが大好物。容器をきれいに洗って食事の準備です。



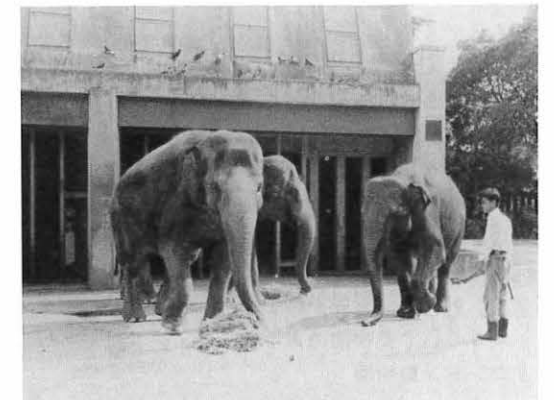
調理場ではその日に与える動物の餌づくり。動物の好みにあわせて、細く切ったり、ねり混ぜたり。



キリンの運動場のそうじ。早くそうじが終わらないかなあ……キリンも首を長くして待っています。



アシカの池のように大きな所のそうじは共同で行います。



朝、寢室から外に出たゾウは好物の乾草をおいしそうに食べます。食欲や元気の有無を観察するのも重要な仕事です。

## 6・7月の動物園日記

- 6/3. ケナガモルモットが仔を4頭産みました。
- 4. ケナガモルモットの2頭目の母親が3頭の仔を産みました。
- 5. ヤギが2頭の仔を産みました。
- 7. 5月28日生れの人工哺育をしているシカの仔はトムと名付けられ順調に育っています。
- 9. アネハヅルが産卵しましたので、さっそくフ卵器に入れました。
- 11. ビューマが交尾しました。
- 15. タンチョウの1羽目のヒナがかえりました。

- 16. 2羽目のタンチョウのヒナがかえりました。フ化日数は33日と31日でした。ニホンザルに4頭目の仔が生まれました。この仔はオスでした。
- 17. 昨日に続いてニホンザルが仔を産みました。この仔もオスで、今年生れの5頭はオス4頭、メス1頭です。
- 20. アシカにオスの仔が生まれました。ハナジカがメスの仔を産みました。
- 21. ハナジカにオスの仔が生まれました。チンパンジーのキャンディーが右眼の上をケガしたので薬をぬってあげました。

- 22. アオダイショウの仔が3頭フ化しました。
- 24. マゼランペンギンのメスがやせてきたので注射を打ちました。
- 26. 府立盲学校の生徒さん18名が来園し、トカラヤギやウサギと楽しく遊びました。
- 27. ジャングルキャットの仔が後足をケガしたので手術をしました。
- 28. ゴシキセイガイインコが打撲症のため死亡しました。
- 29. アメリカバクスのメス、テレサが下痢をしていたので薬を飲ませました。
- 30. タヌキの仔の寄付がありました。

- 7/1. ハナジカにオスの仔が生まれました。
- 2. ゴリラのゴロが鼻水を出しているのを薬を飲ませています。
- 4. フロリダキングスネークが寄生虫症の為に死亡しました。
- 5. ゴリラのゴロが体調をくわしているのを薬を飲ませています。
- 7. バンのヒナが2羽、フ化しました。ハナジカに4頭目の仔が生まれました。
- 8. ハナジカに5頭目の仔が生まれ、この仔はメスでした。

# ヨーロッパの動物園みてあるき ①

§はじめに

5月21日から2週間にわたってヨーロッパの主要な12の動物園を視察見学する機会を持ちましたので、各動物園の特色や、参考になった事など御紹介してみたいと思います。視察コースは地図に示したようにロンドンに始まりパリで終わる、かなりハードなスケジュールでしたが、ホテル、飛行機の予約は一切しておらず、わりと気ままな旅行でした。時間が惜しいため、動物園以外の観光名所は全く見に行かず、動物園の見学だけに終始するといった旅行でしたが、各動物園共、親切にもてなしていただき、困ったこともなく、思う存分、動物園を見学することができました。

§東京→ロンドン

5月20日、東京の羽田を飛び立ちモスクワ経由でロンドンに5月20日の夜8時半に到着、バスで市内へ向かい、1泊朝食付5000円ほどのホテルを見つけ投宿しました。右を向いても左を見ても英語、テレビを付けても英語(当り前のこと?)、明日からの行動に少々不安を感じながらも眠りにつきました。

あけて5月21日、きょうから待望の動物園見学の開始と勇んで起きたものの、時計を見るとまだ6時、朝食までまだ時間があるので、近くにあるロンドンの有名な公園の一つ、ハイパークまで散歩することにしました。朝のひんやりした空気の中、ランニングする人、犬を連れて散歩する人、様々。ただ歩道には犬の糞がいたる所に始末もされずにあるのは閉口しました。朝食後、まずは最初の見学地、ロンドン動物園へと向かいました。有名な2階建バスを乗りついで動物園のあるリージェントパークへ。

§ロンドン動物園

写真を撮るだけ撮りたいので案内をこわずに1人で園内をまわることになりました。1828年に開園した古い歴史を誇るこの動物園は、都心部にあるため面積も14haとやや手狭まながら、哺乳類、鳥類、ハ虫類だけでも800種をこす動物を収容しており、そのコレクションの豊かさには目を見はされます。

動物舎の間には広い芝生帯が随所であり、大きな樹木が長い歴史をしのばせます。100年以上も前に建てられた鳥類館などの古い動物舎と、最近できた



正門

ライオンテラスなどの新しい動物舎が新旧入り混じった感じで共存しており、又、夜行性動物館やゾウ、サイの収容するパピリオンのスケールの大きさには驚かされました。特に11年前にクロール氏の寄贈によって完成した夜行性動物館は、人工的に昼夜を逆転する照明設備や展示の巧みさ、ハリモグラ、バンディクト、アンワンチボ、ポトなどの多数の珍獣や6種類ものキツネザルが収容されており、ロンドン動物園の誇る動物舎の一つといえそうです。

ライオンテラスなどの新しい動物舎が新旧入り混じった感じで共存しており、又、夜行性動物館やゾウ、サイの収容するパピリオンのスケールの大きさには驚かされました。特に11年前にクロール氏の寄贈によって完成した夜行性動物館は、人工的に昼夜を逆転する照明設備や展示の巧みさ、ハリモグラ、バンディクト、アンワンチボ、ポトなどの多数の珍獣や6種類ものキツネザルが収容されており、ロンドン動物園の誇る動物舎の一つといえそうです。

訪れた日は日曜日だったせいか、午前中は入園者は少なかつたものの、午後からは家族連れなどで園内はかなりの人出になりました。親が子供に動物の名前を教えたり説明している光景は日本でもよく見かけることですが、日本とちがうところは動物にお菓子を与えたりゴミクズを散らかしたりしないことでしょうか。

さて、ロンドン動物園では一番の人気者は何といってもジャイアントパンダだと思っていたのですが——チンチンとチャチャというオス、メス2頭が、

1974年に中国から贈られており、共に6才とまだ若く、上野動物園のカンカン、ランランより一回り小型でした。——ところがきにあらず、パンダ舎の前に行くと誰も人がおらず、きょうはパンダを展示していないのかと思ったほどです。1頭ずつ別々に収容していましたが、笹をかじったりしてなかなか愛嬌があるのに、私が見ていた5分間ほどの間にパ

ンダを見に来た人は10人ほどで、日本ほど熱がないのにはいささか拍子ぬけしました。ここで感心したことの一つは案内板です。動物の食事時間、新着、誕生動物の一覧などが掲示しており、又、動物のネームプレートは地図入りで、どここの分布がよく分る仕組みです。売店には動物に関する書籍やおみやげ品が多数おいてありました。ここは教育的施設もよく整っており、動物園会館や世界最大といわれる動物図書館があるのですが、運悪く休館中でした。2時に案内所へ行き案内をこうと、教育部担当のBoorer氏が迎えに来て、まだ見学していない類人猿舎、ハ虫類館、ゾウ、サイのパピリオンなどの裏側を案内していただきました。最後に動物病院に連れて行ってもらい、最新の設備を整えた病院内部及び隔離収容室などを見学しました。5時前にBoorer氏に案内の礼をのべて別れ、もう一度園内をまわることになりましたが、急に空腹感をおぼえ、昼食も食べずに見学していたことに気が付き、あわてて近くの売店でサンドイッチとコーラを買い、やっと一息つくことができました。腹の虫がおさまったところで、閉園までもう一度、ゴリラ、オランウータン、パンダを見に行きました。この大きなオスゴリラのガイ君(32才)、芝生の上で寝ころがったりしてなかなかの愛嬌者でしたが、日本に帰ってから、虫歯の手術中に心臓麻痺で死亡したという新聞記事を読み、残念に思いました。

§ロンドン→ウィップスネード

あくる22日、ロンドン郊外の田園都市にあるウィップスネード動物公園を訪れるため、ルートン行の汽車の出るセントパンクreas駅へ地下鉄で向いました。途中、明日のアントワープ行の航空券を予約するため旅行社に立ち寄ったため、ルートンからバスでウィップスネード動物公園に着いた時は、すでに2時をまわっていました。

§ウィップスネード動物公園

正門で案内をこうと、公園管理支配人のChamberlain氏が自ら車で案内してくださることになり大助かりでした。園内は229haもあり、天王寺動物



巨大なゾウのパピリオン



人の少ないパンダ舎前



園の22倍の広さで、歩いてまわれればとも1日かかっても見学できるものではありません。この動物公園は1931年に開園し、ロンドン動物園の分園のようなもので、ロンドン動物園と同じくロンドン動物学協会の経営によるものです。

30頭ほどのシロサイが牧場のような感じの広大な放飼場で飼育されており、遠くにいるシロサイが豆粒ほどにしか見えないほどの広さに、まず最初に驚かされました。このシロサイに限らず、カモシカ、シカ類、モウコノウマなどの草食獣は全て広々とした一面青々とした牧草でおおわれた放飼場で飼育されており、牧場の中で動物が飼われているといった感じです。Chamberlain氏は私の希望にそって随所で車を止めて動物の説明をしてくださるので写真も十分に撮れ、しかもいいにゆっくりと話してくれるので英語の聞き取りの不得手な私にも、十分理解することができました。プレスボック、ケープ

バッフアロー、ジャコウウシなど、このすばらしい環境のもとで順調に繁殖しているとのことでした。草食獣以外にもネコ科やクマ科の動物、ペンギン、アカクビワラビーの白色種などいろいろそろえていましたが、やはりこの動物園の特色は草食獣につきるようです。

最後に園内のレストランで、おいしい紅茶をごちそうして頂き、汽車の時間までお互いの動物園のことをいろいろ話し合い、有意義な時間がもてました。

最後に園内のレストランで、おいしい紅茶をごちそうして頂き、汽車の時間までお互いの動物園のことをいろいろ話し合い、有意義な時間がもてました。

最後に園内のレストランで、おいしい紅茶をごちそうして頂き、汽車の時間までお互いの動物園のことをいろいろ話し合い、有意義な時間がもてました。

最後に園内のレストランで、おいしい紅茶をごちそうして頂き、汽車の時間までお互いの動物園のことをいろいろ話し合い、有意義な時間がもてました。

最後に園内のレストランで、おいしい紅茶をごちそうして頂き、汽車の時間までお互いの動物園のことをいろいろ話し合い、有意義な時間がもてました。

最後に園内のレストランで、おいしい紅茶をごちそうして頂き、汽車の時間までお互いの動物園のことをいろいろ話し合い、有意義な時間がもてました。



シロサイの放飼場



モウコノウマの放飼場



ケープバッフアロー



そうカバ





Chamberlain氏は親切にもルートの駅まで車で送ってくださり、楽しい日を過ごすことができました。

§ ロンドン→アントワープ

5月23日、ロンドン発8時半のアントワープ行の飛行機を予約したので、ホテルの朝食も食わずに地下鉄でヒースロー空港へ向かいました。開通してまもないこの空港行の地下鉄は、窓の大きい非常にゆったりとした電車です。定刻通り、9時すぎアントワープの空港に着いたものの、あまりの寒さに長袖のジャケットを着こみました。動物園までタクシーなら2000円ほどのことでしたが、何事も節約と、バス(約100円)で中央駅へと向かいました。アントワープ動物園は市の中心部にあり、中央駅とは隣合わせです。写真で見たことのある動物園の門を見つけた時はほっとしました。まずは今夜の宿をと、周辺の安そうなホテルをさがして、動物園の真向かいにある一泊朝食付3500円のホテルを見つけました。重いトランクを置いて、2台のカメラを入れたショルダーバッグを持って早速、動物園へ向かいました。

§ アントワープ動物園

門で案内をこうと、園長宛に前もって手紙を出していたため、すぐBerg園長にお会いすることが

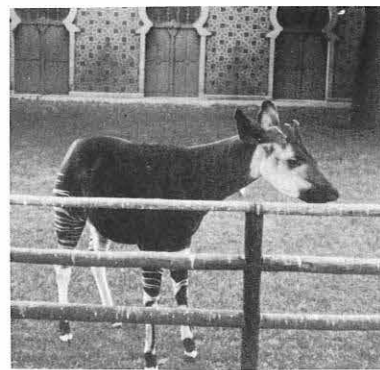


正門

でき、豪華な園長室で朝のお茶を一緒に飲みながらアントワープ動物園の概略について、話を伺うことができました。ここで獣医のMeurichy氏を紹介してもらい、彼の案内でまず研究所を見学しました。わりと古びた建物でしたが内部はきれいに整理されており、解剖室、診療室、検査室などを見学し、薬品や獣医器材なども見せてもらいました。その後、彼は郊外にある第2動物園のブラッケンダールへ行くとのことなので1人で園内を見学しました。この動物園は面積10haと、天王寺と同じ広さであり、まさに都市動物園といったところで、放養式は少く、又、その放飼場も広いスペースをとっていませんでした。

曇り空のため写真は明日撮ることにして、とにかく園内を見て回りました。オカピやバビルサ、オウギワシなど初めて見る実物に多少感激しましたが、何といても一番の見どころは鳥類館でした。種類の豊富なことはもちろん、ガラス張りで見やすく設

計されており、ゴクラクチョウを始め珍しい貴重な鳥が数多く収容されていました。ただ残念なことは、展示効果は大変すばらしいものの、こういう収容場所では繁殖は全く望めないことです。



オカピ

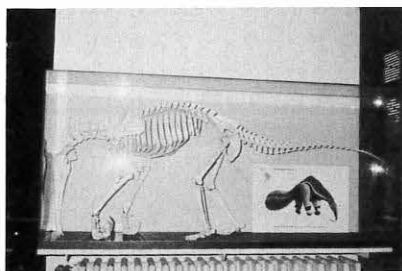
動物舎は非常に古い建物が多く長い歴史をしのば



バビルサのオス

せませんが、ラマやキリン、サイの動物舎は、おとぎの国にでもできそうな色彩豊かな凝った造りでした。

翌24日、開園(8時)と同時に再度アントワープ動物園を訪れました。丁度Berg園長と門の所で一緒になり、園長室でしばらく話を伺った後、ハ虫類飼育課長のSande氏の案内で博物館を見学しました。このアントワープ動物園はアントワープ動物学協会の経営によるものですが、この主体の動物園以外に博物館を始め動物学研究所、図書館、2000人収容の劇場などの附属の教育センターがあり、動物園教育の充実ぶりには目を見はされます。この博物館もご自慢の施設の一つだけあって、多数の鳥類のはく製をはじめ、ゾウ、オオアライクイなどの全身骨格や、初期の顕微鏡などいろいろなものが展示してあり



オオアライクイの全身骨格標本

ました。次に彼の案内で類人猿舎へ向かいましたが、ここには珍しいマウンテンゴリラとピグミーチンパンジーが飼育されていました。又、3ヶ月前に開館したサル舎は寝室側はガラス張りで見やすく設計さ

れており、特にグラスファイバーで作った凝岩のすばらしさには驚かされました。その凝岩もサルの



マウンテンゴリラ

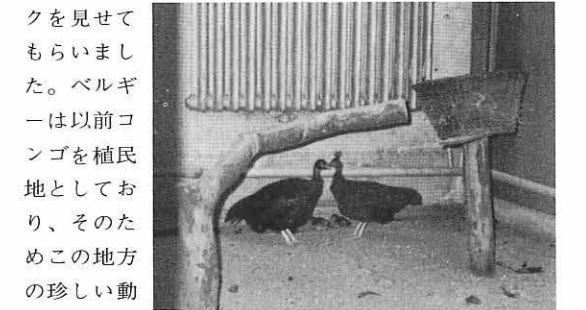
地域性をうまく示してあり、例えばマントヒヒの所はエジプト式の模様が描かれており、ニホンザルの所では赤い鳥居らしきものが作られているのには驚きと共に多少の異和感も感じました。

この動物園は牛族も数多く集めており、バンテン、ガウル、ヤク、アフリカ、スーダン、アカ、インドの各水牛、ヨーロッパ、アメリカの各バイソンなど、なかなか見ごたえがありました。

ハ虫類館もその展示のうまさには驚かされました。特に数ヶ所にテレビを設け、ビデオテープで餌を食べるところなどが放映されており、教育効果も満点でした。又、ボアの収容室では前面にガラスがなく、中にそっと手を入れてみると冷気が上下に流れるエアーカーテン式になっており、この低温度のためにヘビが外に逃げない仕組みです。夜行性獣館もご自慢の施設の一つだけに、ウォンバット、ハリモグラ、ナマケモノ、ジェネットなどがうまく工夫して展示されており、ロンドン動物園の夜行性獣館に勝るとも劣らない立派な施設でした。

正午にレストランでSande氏と昨日案内して頂いたMeurichy獣医、それから鳥類飼育課長のBocxstaele氏も加わって昼食会を開いていただき

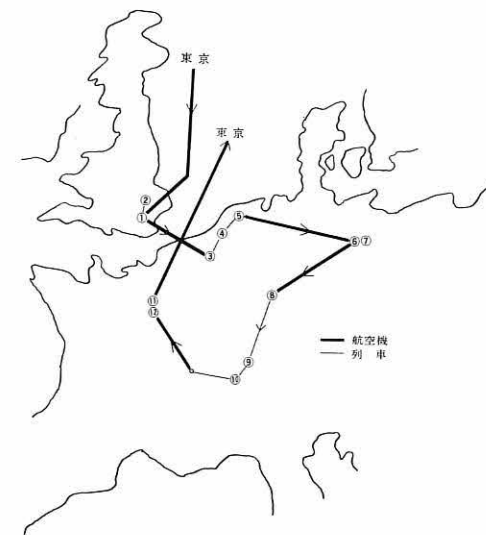
ました。ベルギーに来て感じたことは、イギリスは英語の本場だけに話したり聞いたりするのはかなり苦勞があったのですが、ここベルギーでは英語は第2言語だけに、相手もゆっくり考えて話をするので、会話そのものは楽で、おかげで時間のたつのも忘れて話がはずみました。昼食後、Bocxstaele氏の案内で、ここが繁殖のメッカといわれるコンゴクジャクを見せてもらいました。ベルギーは以前コンゴを植民地としており、そのためこの地方の珍しい動物をこの動



コンゴクジャクの親子

物園はかなり多く収集展示していました。その内の一つ、このコンゴクジャクは現在10番いほどが飼育されており、非公開の繁殖場ではふ化したヒナをつれた番いが見られました。ここでこの貴重なクジャクのオス、メスの羽を数本ずつ頂き、非常に感激しました。次の目的地、ロッテルダムへは列車で行くことにしていましたが、オカピの寝室などを見学していたら時刻に遅れたため、一列車遅らせて調理場や動物の餌用のパッタ、コロロギ、ミルワームなどの昆虫養殖場を見せてもらいました。

Bocxstaele氏は親切にも次の目的地ロッテルダム動物園に連絡をしてくださった上、道不案内の私を中央駅のホームまで見送ってくださり、アントワープを後にしました。(飼育課:宮下 実)



- ① ロンドン動物園 (イギリス)
- ② ウィップスネード動物公園 (イギリス)
- ③ アントワープ動物園 (ベルギー)
- ④ ロッテルダム動物園 (オランダ)
- ⑤ アムステルダム動物園 (オランダ)
- ⑥ 西ベルリン動物園 (西ドイツ)
- ⑦ 東ベルリン動物園 (東ドイツ)
- ⑧ フランクフルト動物園 (西ドイツ)
- ⑨ バーゼル動物園 (スイス)
- ⑩ ベルン動物園 (スイス)
- ⑪ バリ動物園 (フランス)
- ⑫ ジャルダン・デ・プランテ動物園 (フランス)

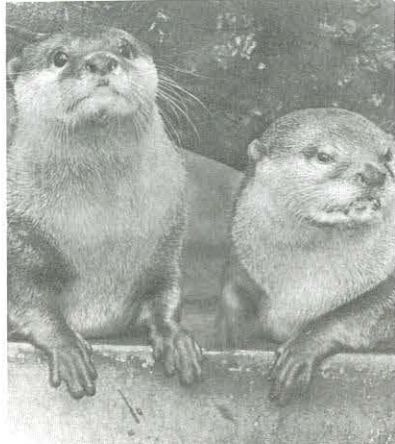


Chamt  
 ってく  
 §ロン  
 5月  
 飛行機  
 下鉄で  
 もない  
 ったり  
 ワープ  
 のジャ  
 なら20  
 ス(約  
 ワープ  
 わせで  
 けた時  
 辺の安  
 にある  
 重いト  
 ルダー  
 §アン  
 門で  
 をこう  
 園長宛  
 もって  
 を出し  
 いたた  
 すぐBe  
 長にお  
 するこ  
 でき、  
 アント  
 ができ  
 てもら  
 わりと  
 ており  
 品や獣  
 彼は郊  
 くと  
 の動物  
 園まに  
 又、そ  
 した。  
 曇り  
 く園内  
 ギワシ  
 何とい  
 の豊富

# キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑤

☆食事マナー etc.

動物園の昼下がり、北園の小獣舎にいる動物達に、食事が運んでいくと、動物達はいっせいに、ソワソワ、ワクワク。早くちょうだいと、言わんばかりにビャービャーとなきさけぶコツメカワウン。動物達にとって1日で一番楽しいひと時、小獣舎のすべての動物に餌を配った後、動物達の食事マナーを見るのはとても楽しい事です。それぞれの動物が、独特の食事マナーをしています。まず雑食性のアライグマ一家は、きょうに



両手?で、鶏頭やムシイモ、バナナ、パン等をもって、パンダスタイルで食事をします。そして満腹になってくると、ゴロツとおお向けになり、食事をつづけます。アジや鯨肉、鶏頭を食べるコツメカワウン達は、前足でアジを押えてムシャムシャと、おいしそうに食べています。パンやリンゴ、イモ、ニン

ジン等を食べる、タテガミヤマアラシ、パラワンヤマアラシ達は、前足で餌を押えてモグモグと食べ、アグーチは、リスの様に両手?で餌を持って食べ、その仕草は、とても可愛いものです。みなさんも一度動物達の食事マナーを観察してはいかがですか。



ジン等を食べる、タテガミヤマアラシ、パラワンヤマアラシ達は、前足で餌を押えてモグモグと食べ、アグーチは、リスの様に両手?で餌を持って食べ、その仕草は、とても可愛いものです。みなさんも一度動物達の食事マナーを観察してはいかがですか。



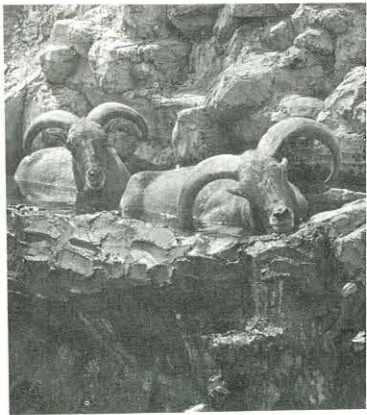
(農本 武志)

## ☆バス・タイム

夏の暑さは人間でさえかなりこたえます。そこで、海、山などへ出かける事が多いのですが、動物園の動物達は自分達なりに出来る限り自分達の動物舎内で夏の暑さを乗りきろうと苦労しているようです。

動物達の夏の対策として水浴びがあります。シカなどは足を池の中や水飲みにつけるようすし、ゾウは鼻で水を噴き上げます。

私の担当するバーバリーシープの場合、水飲場のプールを水浴びの場というよりもバスルームとして利用



していることが多いのです。2頭入れればいっぱいになるほどの広さですが、そこは強い者から順番が決っていて、1頭が上ればすぐ順番待ちしていた者が水につかる、というふうにしてかなりうまく利用しています。暑い日中に仕事をしている時、バーバリー舎のプールを見るといつも満員で、さも気持ち良さそうに目を閉じてドップリと水につかっている姿を見ると「オイ、ちょっと僕にも入らせてくれよ!!」と言いたくなるほどです。

バスルームのバーバリーシープより「暑中御見舞い申し上げます」と言っていたようすので書き添えておきます。(仲谷 登)

# 動物園ニュース

## ☆アシカの誕生

5月30日にカリフォルニアアシカが1頭生まれましたが、続いてもう1頭が6月20日に生まれました。2頭の赤ちゃん共すこぶる元気で、母親と一緒に泳ぎ回り、すくすくと育っています。アシカの誕生は3年ぶりだけに今後の成育が期待されます。



## ☆ハナシカ・ダマシカの出産

6月20日にハナシカが1頭生まれたのを始めとして、21日、30日、7月7日、8日、9日、11日、14日と各1頭ずつ誕生し、計8頭の



んが、四季を通じた珍しい生態の数々を、パネル写真51枚で紹介し、あわせて、クマのおモチャ21点も展示されています。期間は7月1日～8月31日です。

## ☆第4回サマースクールの開講

7月21日～31日まで、小学生4～6年生を対象としたサマースクールが開講されました。定員240名のところ応募者が423名もあり、抽選により参加者を決定しました。第1日目は大阪市立自然史博物館で動物の骨格を調べたり、スケッチをしたりして、



第2・3日目は動物園で動物の観察や飼育の勉強などをしました。又、このサマースクールのお手伝いに約85名のボランティアの方々が参加されて、引率、指導など巾広く協力して頂きました。

## ☆ホッキョクグマに氷のプレゼント

真夏の暑さのなかで、寒い国からやってきた動物達は、ぐったりしています。

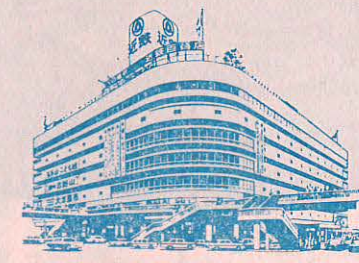


そこで、特に暑さに強いキ

# 夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



上本町店 (06) 779-1231



アベノ店 (06) 624-1111



奈良店 (0742) 33-1111

# 近鉄百貨店

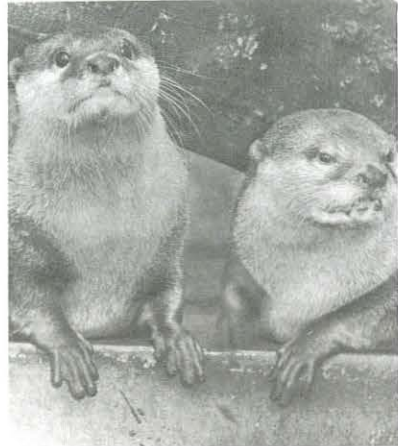


Chamk  
つてく  
§ロン  
5月  
飛行機  
下鉄で  
もない  
ったり  
ワープ  
のジャ  
なら20  
ス(約  
ワープ  
わせで  
けた時  
辺の安  
にある  
重イト  
ルダ  
§アン  
門で  
をこう  
園長宛  
もって  
を出し  
いたた  
すぐBe  
長にお  
するこ  
でき、  
アント  
ができ  
てもら  
わりと  
ており  
品や猷  
彼は郊  
くとの  
動物園  
まさに  
又、そ  
した。  
曇り  
く園内  
ギワシ  
何とい  
の豊富

## キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑤

☆食事マナー etc.

動物園の昼下がり、北園の小獣舎にいる動物達に、食事が運んでいくと、動物達はいっせいに、ソワソワ、ワクワク。早くちょうだいと、言わんばかりにピーピーとなきさけぶコツメカワウソ。動物達にとって1日で一番楽しいひと時、小獣舎のすべての動物に餌を配った後、動物達の食事マナーを見るのはとても楽しい事です。それぞれの動物が、独特の食事マナーをしています。まず雑食性のアライグマ一家は、きょうに



両手?で、鶏頭やムシイモ、バナナ、パン等をもってパンダスタイルで食事をします。そして満腹に

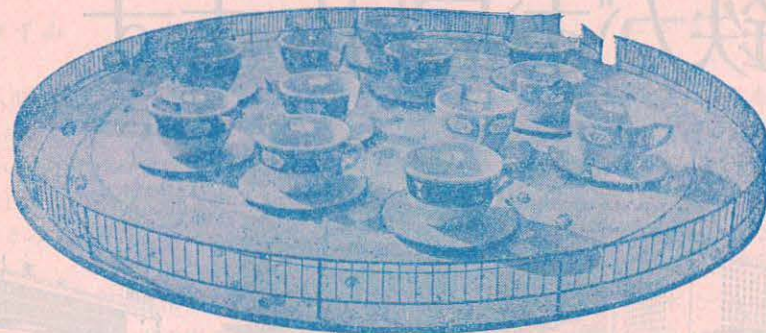
の動物に餌を配った後、動物達の食事マナーを見るのはとても楽しい事です。それぞれの動物が、独特の食事マナーをしています。まず雑食性のアライグマ一家は、きょうに



ジン等を食べる、タテガミヤマアラシ、パラワンヤマアラシ達は、前足で餌を押えてモグモグと食べ、アグーチは、リスの様に両手?で餌を持って食べ、その仕草は、とても可愛いものです。みなさんも一度動物達の食事マナーを観察してはいかがですか。



## 遊園施設委託経営・製作・販売



## 久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江御池通2-100  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

## 動物園ニュース

### ☆アシカの誕生

5月30日にカリフォルニアアシカが1頭生まれましたが、続いてもう1頭が6月20日に生まれました。2頭の赤ちゃん共すこぶる元気で、母親と一緒に泳ぎ回り、すくすくと育っています。アシカの誕生は3年ぶりだけに今後の成育が期待されます。



### ☆ハナシカ・ダマシカの出産

6月20日にハナシカが1頭生まれたのを始めとして、21日、30日、7月7日、8日、9日、11日、14日と各1頭ずつ誕生し、計8頭の赤ちゃんが元気に育っています。ハナシカの赤ちゃんは例年



5、6頭誕生していますが、8頭も生まれたのは初めてで、ハナシカの群れはかわいいバンビで大にぎわいです。

### ☆「ツキノワグマの生態写真展」

童話や昔ばなしに登場し、なじみの深い動物であるツキノワグマの生態を記録した写真展が、北園展示館で開かれています。



これは、たまたま、ツキノワグマの子どもを保護し、飼育した写真家の飯島正広さ

んが、四季を通じた珍しい生態の数々を、パネル写真51枚で紹介し、あわせて、クマのおモチャ21点も展示されています。期間は7月1日～8月31日です。  
☆第4回サマースクールの開講

7月21日～31日まで、小学生4～6年生を対象としたサマースクールが開講されました。定員240名のところ応募者が423名もあり、抽選により参加者を決定しました。第1日目は大阪市立自然史博物館で動物の骨格を調べたり、スケッチをしたりして、第2・3日目は動物園で動物の観察や飼育の勉強などをしました。又、このサマースクールのお手伝いに約85名のボランティアの方々に参加されて、引率、指導など幅広く協力して頂きました。  
☆ホッキョクグマに氷のプレゼント

真夏の暑さのなかで、寒い国からやってきた動物達は、ぐったりしています。



そこで、特に暑さに弱いホッキョクグマに対して、暦のうえで大暑にあたる7月23日、128

kgの氷柱2本をプレゼントし、一時の涼感を楽しんでもらいました。2頭のホッキョクグマはこの氷柱にかじりついて、喜んでいました。

☆「小鳥舎の建替え工事」のお知らせ

このたび、社団法人日本宝くじ協会の「宝くじの益金」によるバードケージの建設が始まりましたのでお知らせします。

このバードケージは、これまでの小鳥舎が手狭となっていたものを、同協会のご寄贈により新しく建替えるもので今秋の10月末ごろに完成する予定です。この完成により小鳥類が、“飼いやすく、見やすく”なりますが、同時に熱帯地方の鳥類の展示の充実も考えています。

なお、この工事期間中、小鳥、インコ類は展示できませんので御了承下さい。

◎お知らせ◎  
動物園の休園日は毎月第3月曜日です。11月までの休園日は下記の通りです。  
8月21日、9月18日、10月16日、11月20日  
開園時間は9時半～5時で、4時半に切符売止めになります。



なきごえ 昭和53年8月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

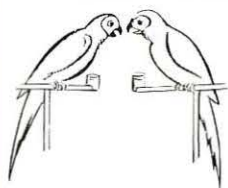
第14巻第8号(通巻156号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

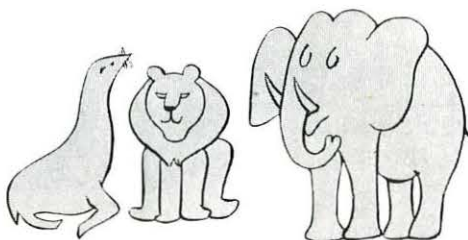
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志  
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登